

官報

明治四十年三月十九日 號外

明治四十年三月十九日

火曜日

印刷局

○第二十三回衆議院議事速記録第十七號

明治四十年三月十八日(月曜日)午後一時九分開議

讀事日程 第十六號 明治四十年三月十八日

午後一時開議

(樺太ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律案 第一讀會ノ續(報告)

第一

(政府提出) 公共團體課稅ノ制限ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

第二

右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第三

統監府及關東都督府等在勤官吏ノ恩給及遺族扶助

第四

料ニ關スル法律案(政府提出) 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第五

統監府、關東都督府及樺太等在勤巡查看守及女監

第六

取締ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案(政府提出) 提出)

第七

右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第八

韓國ニ在勤スル居留民團立在外指定學校職員ノ退

第九

隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案(政府提出) 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十

租稅其他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル法律案

(政府提出)

右議案ノ審查ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第十一

裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案(松浦五兵衛)

第十二

國有林野拂下ニ關スル建議案(神崎東藏外)

第十三

第二高等農林學校位置選定ニ關スル建議案(神崎東藏外)

第十四

米國「ゼームスター」博覽會出品國庫補助ニ關スル建

第十五

議案(村松愛藏外)

(七名提出)

(特別報告第十一號)北海道鐵道天鹽北見線工

(委員長報告)

(特別報告第十二號)特別報告第十二號

(請願)

(特別報告第十三號)高等工業學校設置ノ請願

(請願)

(特別報告第十四號)擊劍術ヲ各學校ノ正科

(請願)

(特別報告第十七號)登記所新設ノ請願

(委員長報告)

(特別報告第十九號)臺灣總督府ノ發行スル彩票ニ關スル質問書

第一

臺灣總督府ノ發行スル彩票ニ關スル質問書

第二

若シ富饒ト同一ナリセハ先づ少クヨ臺灣ノ律令ニ依テ明治十五年布告第

二十五號ノ適用ニ關シ一部分ノ制限ヲ規定セサルヘカラサル筈ナリ然ルニ明治三

○議長(杉田定一君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

(書記期讀)

一議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

北海道函館外四港修築ニ關スル建議案

提出者 浅羽 靖君 金子 元三郎君 大野 龜三郎君

安達 謙藏君 小河 源一君 奥村善右衛門君

一山本悌一郎君丸山嵯峨一郎君ヨリ臺灣總督府ノ彩票ニ關スル質問主意書ヲ

提出セラレタリ

一政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

市町村立小學校教員退隱料及遺族扶助料法中改正法律案

(左ノ報告ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)

一委員長及理事左ノ通り當選セラレタリ

煙草專賣法中改正法律案

委員長 福井 三郎君 理事 池田 惟貞君

明治三十四年法律第二十七號中改正法律案

委員長 植場 平君 理事 松原 九郎君

市場法案

委員長 立川 雲平君 理事 早速 整爾君

農事改良獎勵ニ關スル建議案

委員長 多田 作兵衛君 理事 米田 武八郎君

(左ノ質問書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ掲載ス)

臺灣總督府ノ發行スル彩票ニ關スル質問書

右成規ニ據リ提出候也

明治四十年三月十八日

提出者 山本 悌一郎 丸山嵯峨一郎
贊成者 上埜 安太郎

外三十九名

臺灣總督府ノ發行スル彩票ニ關スル質問書

第一 政府ハ明治三十九年律令第七號ノ規定ニ基キ臺灣總督府ヨリ發行スル彩

票ヲ刑法上ノ不正ニ發行サレタル富饒ト同一視スルヤ

第二 若シ富饒ト同一ナリセハ先づ少クヨ臺灣ノ律令ニ依テ明治十五年布告第

二十五號ノ適用ニ關シ一部份ノ制限ヲ規定セサルヘカラサル筈ナリ然ルニ明治三

十九年律令第七號ヲ見ルニ之カ明文アルコト無シ何故ニ政府ハ之ヲ認容スルヤ
第三 裁判所ハ臺灣彩票ノ賣買贈與ニ關係セリトノ嫌疑アル多數ノ内地人ニ對シ
現ニ犯罪嫌疑者トシテ續々之カ檢舉ヲ爲シツツアリ政府ハ此ノ方針ヲ以テ更ニ大

ニ告發檢舉ヲ遂行セントスルカ
○議長(杉田定一君) 是ヨリ會議ヲ開キマス

○南條吉左衛門君 是ヨリ本院ノ體面ニ關スル調査ノ件、委員會ヲ開キタイト思ヒ

マスカラ許可ヲ願ヒマス

○議長(杉田定一君) 南條吉左衛門君ヨリ本院ノ體面ニ關スル調査ノ件、委員會ヲ開キタイト云フ請求ガアリマスガ、許可シテ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(杉田定一君) 御異議ガナイト認メマス

○加瀬禮逸君 私ハ議院ノ神聖ヲ保バタメニ一言申述ベテ置キタイ、ソレハ既ニ本院ノ體面ニ關スル調査ノ件ノ調査ヲ嘱託シテアツテ、議員ノ行動ノ如何ヲ調査スベキ時機ニ際會シテ居ル、而シテ私ハ今日ノ報知新聞紙上ニ於キマシテ、矢島君ト私トが何カ相摸屋ヲ會合シテ、其筋三買收サレタ云フ記事ガアル、甚ダ不祥ニ堪ヘス、是ニ於キマシテ私ハ今日東京地方裁判所ニ告訴ヲ提起シテ置キマシタカラ、此事ヲ明言シテ置キマス、尙一言シテ置キタイノハ矢島君ト私トハ一面識モナイ、矢島君ハドウ云フ人カモ知ラヌ、又面會ヲシタナド、云フコトハ全ク事實ハ無根テアル、私ハ身不肖ナリト雖モ讀

決權ノ重ンズベキヲ知テ居ル、議員ノ行動ハ正理ノ命スルトコロニ從テ是非ノ分別ヲ

シナケレバナラヌコトモ知テ居ル、然ルニ斯ノ如キ記事ノ出タノハ 何者カタメニスルトコロアグテ中傷スルモノト信ジマスガ故ニ、議院ノ體面、議會ノ神聖ヲ維持スルタメニ茲ニ今

日明カニ告訴ヲ提起シタコトヲ申シテ置キマス

○福井三郎君 是ヨリ午前ニ引續キ請願委員會ヲ開キタイト思ヒマスカラ、許可ヲ願ヒマス

○議長(杉田定一君) 福井三郎君ヨリ請願委員會ヲ開キタイト云フコトアリマスガ、許可シテ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(杉田定一君) 御異議ナイト認メマス御詰リ申スコトガアリマス、市場法案委員池田惟貞君事故ノタメ辭仕ノ申出ガアリマシタ、許可シテ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(杉田定一君) 御異議ナイト認メマス、同委員ハ議長指名ニ付キ永見寛一君ヲ補欽トシテ指名致シマス——山本悌二郎君

(「山本悌二郎君登壇」)

○山本悌二郎君 私ハ臺灣總督府ノ發行ニ係ル彩票ニ關シマシテ二三ノ質問ヲ茲ニ敷衍シテ内務大臣及司法大臣ノ明確ナル辯明ヲ求メマス、第一政府ハ明治三十九年

律令第七號ノ規定ニ基キ、臺灣總督府ヨリ發行スル彩票ヲ刑法上ノ不正ニ發行セラタル富鐵ト同一視スルヤト云フノア、此富鐵ヲ始メテ禁止シタトコロノ法規ハ、明治元年十一月二十二日ノ布告アリテ、此布告ニ依テ富ノ運行ヲ固ク禁止シテアリマス、續イテ明治十五年布告第二十五號ニ依テ、此元年ノ布告ニ禁止シテアル富鐵ノ賣買ヲ爲ス者ハ重禁錮六箇月以内ノ刑ニ處スルト規定シテアル、是が今日現在行ハレテ居ル富ニ關スル罰則テアリマス、然ルニ此明治元年ニ禁止シタトコロノ富鐵ハ一私人ノ異行スル富ヲ指シムモノデ、勿論政府が國家ノ目的ヲ以テ發行スルトコロノ彩票ノ如キモノヲ、其當時ニ於テハ意味シテ居ラカタト云フコトハ、甚ダ明ナル事柄テアリマス、然ルニ此項聞クトコロニ依レハ此臺灣總督府ノ發行スル彩票が、内地ニ於テ盛ニ賣買サレルト云フコトガアルタメニ政府ハ、俄ニ其檢舉ニ著手シテ、續々告發檢舉ヲ遂行シテ居ルサウテゴザイマス、然レバ政府ハ臺灣總督府ノ發行シテ居ル彩票ヲ、明治元年ノ禁止ニ係ル富鐵ト同一視シテ居ルカノ如ク見ユルガ、唯今申ス通りニ一私人ノ不正ニ興行ニ係ルトコロノ富鐵ト、政府が國家ノ目的ヲ遂行スル必要ヨリシテ發行スル彩票ト云フモノト、同一ノ刑法ニ當該メテ之ヲ處分スルト云フコトハ、吾ミハチト首肯が出來兼ネル、政府ハ果シテ二者ヲ同一視スルヤト云フコトニ付イテ答辯ヲ願イタイ、次ハ若シ富鐵ト同一ナリトセバ、先ア少クトモ臺灣律令ニ依テ十五年布告二十五號ノ適用ニ關シ、一部分ノ制限ヲ規定セザルベカラズ、然ルニ三十九年律令七號ヲ見ルニ是ガ明文アルコトナシ、何故ニ政府ハ之ヲ認容スルヤト云フコトニ付イテ答辯ヲ願イタイ、次ハ年ノ布告第二十五號ノ重禁錮六箇月以内ノ罰則ト云フコトハ、是ハヤハリ帝國ノ刑法デアル以上ハ、ヤハリ臺灣ニ於テモ行ハレテ居ルノデゴザイマス、而シテ臺灣ニ於テ總督府ヨリ彩票ヲ發行フヂ、其彩票ノ賣買ハ臺灣ノ地域内ニ於テハ之ヲ許可スルト云フコトニナル以上ハ、勢ヒ此六箇月以内ノ重禁錮ニ相當スルトコロノ刑罰ハ、是ハ臺灣ノ地域ニ於テ彩票ヲ賣買スルモノニハ適用シナイト云フトコロノ制限的法律ヲ別ニ設ケナイ限りハ、抵觸スルト云フコトニナリマス、然ルニ今日マテ此臺灣ノ彩票發行ニ關スル律令ニハ何等罰則ニ關シテ取除ノ、即チ除外スルトコロノ規定ト云フモノガ設ケテナリノミナラズ、又特別ノ律令ニ依テモ之ヲ規定シテナリノテ、故ニ今日ハ此臺灣ノ地域内ニ於テハ彩票ノ賣買ト云フモノガ自由アツテ、サウシテソレト同時ニ此富鐵ヲ禁止シテアツテ、富鐵ヲ罰スルトコロノ刑罰ト云フモノモ同時ニ行ハレテ居ルト云フ姿ニナシテ居リマス、若シ富鐵ト云フモノト彩票ト云フモノガ同一ノモノデアルトシタナラハ、何故ニ政府ハ斯ノ如キ矛盾衝突スルトコロノ事柄ヲ其儘ニ認容シテ居ルノアラウカト云フノガ、私ノ質問ノ大體デアリマス、テ想フニ政府ハ此彩票ト云フモノト富鐵ト云フモノハ是ハ別物ト見テ居タニ相違ナカラウト思ヒマス、別物デアルガ故ニ、現在富鐵ヲ罰スルトコロノ刑法ハ臺灣ニ行ハレテ居リナカラ、別段之ニ制限ヲ付シナクテモ彩票ノ賣買ハ之ヲ臺灣ニ許ス上云フコトが出來ルノアラウト思ヘレマス、此點ニ付イテ答辯ヲ願ヒタイ、次ニハ今日開クトコロニ依リマスルト云フト、裁判所ハ此臺灣ノ彩票ヲ内地ニ於テ賣買スルモノ

ニ對シテ、大檢舉ヲ行ヒツ、アルト云フコトアリマス然ルニ、此彩票ヲ賣買スルモノハ一體ドウ云フ考ヲ以テ多クハ賣買シテ居ルガラカト云フコトノ沿革ヲ尋ネテ見マスルト、是ハ誠ニ偶ムベキ無邪氣ナ行掛リニナラテ居リマス、ト申シマスノハ富鐵ト云フ彩票ト云フモノが同一ノ物アルヤ否ヤト云フヤウナコトハ勿論トシテ、元來富鐵ト云フモノハドンナモノアルカスラモ知ラナイモノガ、全國ノ中殊ニ地方ナドニハ多々アリマス、ソヨク新聞紙等デハ頻リニ臺灣ノ彩票ノコトヲ臺灣彩票が發行サレテ以來掲載致シテ、其都度毎ニ其當選ノ札數及當選ノ金額ト云フヤウナコトヲ公衆ニ向ダテ告ケテ居リマスノア、ノミナラズ、臺灣ニ於ケルトコロノ彩票ノ問屋等ハ内地ノ新聞ヘ麗々シク廣告ヲシテ、サウシテ此彩票ノ買入方ヲ勧誘シテ居リマシタノア、現ニ是ハタゞホンノ一例ニ過ギマセヌガ、今日ノ時事新報ヲ私ハ茲ニ持參致シテ居リマスガ、フレニヤハリ彩票ニ關スルトコロノ廣告が載シテ居リマスノア、チョット御参考マテニ讀上ゲマスノゴザイマスガ、是ハ臺灣基隆ノ瑞芳街道ト申ストコロノ絹川商會ト云フ所カラ出マレタ廣告バアリマス勿驚頭彩十万圓、臺灣彩票弊商會豫約致候上ハ確實ニ送呈可仕候申込續々有之付至急御申込有之度候御注文ノ諸君へハ抽籤表進呈仕候」斯ウ云フヤウナ廣告ハ今日ニ始ダノテハナイノア、抑、臺灣總督府が彩票ヲ發行スル當初カラシテ、再々中央及地方ノ新聞紙等ニ斯ノ如キ、若クハ之ニ類似スルトコロノ廣告が現ハレテ居リシタ、故ニ此法律思想ノ全然無イモノハ勿論ノコト、法律觀念ノアルモノアセ彩票ト云フモノハ之ヲ買ウテモ或ハ差支ナイカ知ラヌ、ト云フヤウナ考ヲ以テ、サウシテ此賣買讓與シテ、故ニ此法律思想ノ全然無イモノハ勿論ノコト、法律觀念ノアルモノアセ彩票ト云モ問答ノ手紙が來タト云フコトヲ、私ハ確ナル筋カラ聞イテ居ル、ソレハ臺灣彩票ト云フモノハ買ウテ宜イモノアルカドウカ、若シ買ウテ差支ナイモノアルナラバ、其買入方ヲ教ヘテ吳レト云フヤウナ手紙が來タサウテゴザイマス、之ニ徵シテ見マシテモ多數ノ此彩票ヲ賣買シタト云フコトニ關係ノアルトコロノモノハ、多クハ富鐵ト同ラトコロノ刑罰ヲ受クベキ誠ニ恐ロシイモノアルト云フコトハ知ラズシテ、是ハ買ウテモ差支ナイ、況ヤ此臺灣總督府ト云フ政府ノ機關ガ、之ヲ發行シテ居ル以上ハ、尙更是ハ差支ナイモノアル、ト云フ考ヲ以テヲ取扱フモノガ多數アラウト推測サレルノアス、然ルニ政府ハ近頃ニ至ラテ突然此賣買讓與ニ關係シタモノノ檢舉ヲ始メテ、而モ其遠方ハ可ナリ峻酷ヲ極メテ居ルヤウニ聞イテ居リマス、固ヨリ法ヲ知ラズシテ罪ヲ犯スモノトヘ雖モ其罪ヲ免ル、コトノ出來スト云フコトハ、法律上ノ原則デハアリマセウケレモ、併ナガラ當局者トシテハ其法ヲ知ラシムルベク手段ヲ執ルコトガ、是が國民ニ對シテ親切ナル遠方アラウト思ヒマス、然ルニ當局ハ果シテサウ云フ手段方法ヲ執リマシムアラウカ、如何デアルカ私ノ見ルトコロテハ之ニ對シテハ内務省始メ、内務省ノ管下ニ在ルトコロノ警視廳、及

彩票ト云フテ、寄ルト障ルト話が出て居ダト云フコトハ、恐クハ當局ノ耳目ニモ漏レナカタ

テアラウト思フ、然ルニ拘ラズニ對シテ何等警戒ヲ與ヘタコトセナシ、又何等ノ特別ノ取締レタト云フコトモ聞キマセヌ、サウシテ今ヤ此彩票ニ關係スルトコロノモノト云フモノハ、全國ニ瀰漫致シマシテ都鄙遠近ヲ通ジテ其頭數ニシマシタラ恐クハ何万ト云フ數ニ上ダテ居ルアラウト思ハレル事實ガアリマス、斯ノ如ク瀰漫シ、傳播シ、曾リマスノア、シタ今日ニ至ラテ、始メテ今更ノ如ク俄然トシテ檢舉ヲ始メタ、サウシテ其檢舉ノ遺告ヲシテ、サウシテ此彩票ノ買入方ヲ勧誘シテ居リマシタノア、現ニ是ハタゞホンノ一例ニ過ギマセヌガ、今日ノ時事新報ヲ私ハ茲ニ持參致シテ居リマスガ、フレニヤハリ彩票ニ關スルトコロノ廣告が載シテ居リマスノア、チョット御参考マテニ讀上ゲマスノゴザイマスガ、是ハ臺灣基隆ノ瑞芳街道ト申ストコロノ絹川商會ト云フ所カラ出マレタ廣告バアリマス勿驚頭彩十万圓、臺灣彩票弊商會豫約致候上ハ確實ニ送呈可仕候申込續々有之付至急御申込有之度候御注文ノ諸君へハ抽籤表進呈仕候」斯ウ云フヤウナ廣告ハ今日ニ始ダノテハナイノア、抑、臺灣總督府が彩票ヲ發行スル當初カラシテ、再々中央及地方ノ新聞紙等ニ斯ノ如キ、若クハ之ニ類似スルトコロノ廣告が現ハレテ居リシタ、故ニ此法律思想ノ全然無イモノハ勿論ノコト、法律觀念ノアルモノアセ彩票ト云モ問答ノ手紙が來タト云フコトヲ、私ハ確ナル筋カラ聞イテ居ル、ソレハ臺灣彩票ト云フモノハ買ウテ宜イモノアルカドウカ、若シ買ウテ差支ナイモノアルナラバ、其買入方ヲ教ヘテ吳レト云フヤウナ手紙が來タサウテゴザイマス、之ニ徵シテ見マシテモ多數ノ此彩票ヲ賣買シタト云フコトニ關係ノアルトコロノモノハ、多クハ富鐵ト同ラトコロノ刑罰ヲ受クベキ誠ニ恐ロシイモノアルト云フコトハ知ラズシテ、是ハ買ウテモ差支ナイ、況ヤ此臺灣總督府ト云フ政府ノ機關ガ、之ヲ發行シテ居ル以上ハ、尙更是ハ差支ナイモノアル、ト云フ考ヲ以テヲ取扱フモノガ多數アラウト推測サレルノアス、然ルニ政府ハ近頃ニ至ラテ突然此賣買讓與ニ關係シタモノノ檢舉ヲ始メテ、而モ其遠方ハ可ナリ峻酷ヲ極メテ居ルヤウニ聞イテ居リマス、固ヨリ法ヲ知ラズシテ罪ヲ犯スモノトヘ雖モ其罪ヲ免ル、コトノ出來スト云フコトハ、法律上ノ原則デハアリマセウケレモ、併ナガラ當局者トシテハ其法ヲ知ラシムルベク手段ヲ執ルコトガ、是が國民ニ對シテ親切ナル遠方アラウト思ヒマス、然ルニ當局ハ果シテサウ云フ手段方法ヲ執リマシムアラウカ、如何デアルカ私ノ見ルトコロテハ之ニ對シテハ内務省始メ、内務省ノ管下ニ在ルトコロノ警視廳、及

○議長(杉田定一君) 移民保護法案ノ委員會ヲ開キタイト云フ申出ガアリマス、許可シテ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス

○横井時雄君 ドウカ委員ノ御方ハ決算委員室ニ御出ラ願ヒマス

○議長(杉田定一君) 臺灣ニ於ケル特別輸入税ニ關スル法律案外一件、委員會ヲ開キタイト云フ委員長宮崎君ヨリ申出ガアリマス、許可シテ御異議アリマセヌカ

○議長(「異議ナシ」と呼フ者アリ)

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス日程第一樺太ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律案、第一讀會ノ續委員長報告、森秀次君

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス直チニ二讀會ヲ開キマス、委員長報

スル法律案、第一讀會ノ續委員長報告、森秀次君

第一 樺太ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律案 第一讀會ノ續(委員長)

(森秀次君登壇)

第一 樺太ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律案 第一讀會ノ續(委員長)

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、是ニテ本案ハ確定ヲシマシタ、日程第二公共團體課稅ノ制限ニ關スル法律案第一讀會、議案朗讀

第二 公共團體課稅ノ制限ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

(書記朗讀)

北海道、府縣、市町村其ノ他ノ公共團體ハ特別ノ必要アル場合ニ限り内務、大藏兩大臣ノ許可ヲ受ケ非常特別稅法第二十二條第一項及第二項ノ制限ヲ超過シテ課稅スルコトヲ得

附 則

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

(大藏大臣登壇)

○大藏大臣(法學博士阪谷芳郎君) 此法律案ハ地方ノ附加稅ノ制限ヲ多少緩メ

ハ、甚ダ宜シクナイカラ、相當ノ期限ヲ付シマシテ同意ヲ與ヘヤウト云フ議論モザイマシタ、併シ段々政府ノ意思ノ在ルトコロモ確カメマシテ、而シテ種々審議攻究ノ末、誠ニ此法案ハ好マシカラヌ法案デハアリマスルガ、目下樺太ニ於ケル狀態、各種ノ事情ニ照シマシテ、誠ニ是ハ已ムヲ得ナイモノデアルト、委員會ハ認メマシタニ付キマシテ、當路者ニ對シテ將來斯ウ云フ不都合ナ案ハ再び提出ノナイヤウニ致シタイト云フ勸告ヲ用井、又斯様ナ法案ハ成ルベク速ニ廢止ノ時期ニ達スルヤウ經營上大イニ努メラレンコトヲ望ミマシテ、政府委員モ快諾ヲ致シマシタニ付キマシテ、本案ハ可決ヲ致シマシタ、此段御報告ヲ致シマス

○議長(杉田定一君) 別段御意見モナイヤウデアリマスルデ、採決ヲ致シマス、本案ノ二讀會ヲ開クベシト云フニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」と呼フ者アリ)

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス

○恆松隆慶君 直チニ二讀會ヲ開カレントラニテ御異議アリマセヌカ

○議長(杉田定一君) 恒松君發議ノ通直チニ二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス

(「異議ナシ」と呼フ者アリ)

○恆松隆慶君 讀會ノ順序ヲ略シテ確定セラレンコトヲ望ミマス

○議長(杉田定一君) 讀會ノ順序ヲ略シテ確定スルニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」と呼フ者アリ)

樺太ニ施行スヘキ法令ニ關スル法律案 確定議

確定議

○大津淳一郎君 今大藏大臣ノ御説明ニ來年ニナリマスト稅法ヲ調査シテ、更ニ協

賛ヲ得ル積リデアル、斯ウ云フコトアリマスガ、サウシマスルト僅ニ一箇年ノ間シカナイモノニ、此法律ヲ設ケナクテハナラスト云フ程ニ差支ルモノハ例ヲ舉ゲレハドシナモノデアルカ、單ニ緊縮シテ居シテ地方ノ事業ニ困ルト云フダケノモノアハナクシテ、ドンナモノデアルカ、今少シ具體的ニ一二ノ例ヲ伺ヒタ

○合田福太郎君 私モ質問シタイ
（政府委員吉原三郎君登壇）

○政府委員吉原三郎君 唯今ノ御質問ニ御答ヲ致シマスガ、此差支ト申シマスルノハイロく其必要ナル事業デアシテモ、假リニ之ヲ翌年ニ延べ得ルト云フヤウナモノハソレデ宜シウゴザイマスガ、例ヘバ傳染病ノ流行ト云フヤウナ場合デゴザイマス、サウ云フ場

合ニハ據處ナク此制限ノナイトコロノ稅ニ無暗ニ過金ノコトヲ致ス、或ハ已ムヲ得ズシテ現ニ負擔ノ餘力ハ尙アルニ拘ラズ、制限アルガタメニ此公債ヲ起スト云フヤウナコトガ生ジマスノテアリマス、此公債ノコトハ課稅が出來マスレバ即チ負擔ノ餘力ガアリマスレバ、

成ルベク斯ウ云フコトハ致シタクナインデアリマスガ、已ムヲ得ズシテ或ハ之ヲ公債ニ求メマシタリ、或ハ之ヲ協議費ニ求メタリ、或ハ制限ノゴザイマセヌ戸數割ニ重ク負擔ヲサセルト云フヤウナコトガ生ジマシテ、遂ニハ貧民ノ負擔が重クナルト云フコトニナリマスカラ、急納處分ナドモ多ク生ジテ參ルト云フヤウナ次第ガアシテ差支ルノゴザイマス

○合田福太郎君 私ハ大藏大臣ニ質問シマス、何レノ稅デモ此行政官ノ手心デ幾ラデモ負担サセルヤウナモノハ先ツ少ナイグラウト思フ、然ルニ唯今問題ニナシテ居リマス課稅制限ノコトハ、大藏大臣ト内務大臣トノ行政權デ、例ヘバ地租デス、地租ノ如キハ幾ラ

デモ實際ハ御手心デ遣ラレルカ知レマセヌガ、法律ノ上デハ幾ラデモ兩大臣ノ手心デ課稅スルト云フコトニナリマスト、土地所有者ガ安心シテ土地ヲ所有スルト云フコトハ出來

ナイ、所謂制限ノナイ負擔ヲスルト云フコトニナシテ來ルノデスガ、是ハドウ云フ譯デ斯ノ如キ無制限ニ負擔ヲサセルヤウナ立法ヲサレルノデアルカ、其趣意ヲ承ハリタイ

○大藏大臣法學博士阪谷芳郎君登壇）
（大藏大臣法學博士阪谷芳郎君登壇）

○大藏大臣（法學博士阪谷芳郎君） 是ハ寧ロ一ノ御議論ノヤウニモ考ヘラレマスガ、固ヨリ無制限ト云ウタトコロデ何倍ニナシテモ構ヘヌト云フヤウナコトハ勿論ナイノデ、相

當ナ内規ト云フモノヲ設ケマシテ、其内規ト云フモノヲ設ケルニ付キマシテモ、内務大臣協議ヲ致シマシテ、凡ソ此地方々々ト民力ノ程度ヲ計ツテ物ヲ極メテ、其範圍内ニ許

シマストキハ至極行政上便利ト考ヘマス、或ハ此大藏大臣内務大臣ガ認可スルニシテモ、尙制限ヲ設ケタ方ガ宜イト云フ合田君ノ御論デアリマスレバ、是ハ一ノ御議論トシテ承リマスガ、政府デハソレニハ及バヌト考ヘテ居リマス

○議長（杉田定一君） 別段質疑モナイヤウデアリマスカラ次ニ移リマス、日程第三、右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

○恆松隆慶君 九名ノ委員、議長指名ニナランコトヲ望ミマス

○議長（杉田定一君） 恒松君發議ノ通、議長指名九名ノ委員ヲ御異議ハアリマセヌカ

（「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（杉田定一君） 御異議ガナイト認メマス

○議長（杉田定一君） 御異議ガナイト思ヒマス
（「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ）

○議長（杉田定一君） 恒松君發議ノ通リ第四ヨリ第九ニ至ル日程ヲ一括シテ議題トシ、併セテ政府ノ説明ヲ求メルト云フコトニ御異議ハアリマセヌカ

○議長（杉田定一君） 御異議ガナイト認メマス

第四 統監府及關東都督府等在勤官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律案（政府提出）

（書記朗讀）
統監府及關東都督府等在勤官吏ノ恩給及遺族扶助料ニ關スル法律案

明治三十三年法律第七十五號第一條ノ規定ハ別ニ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外統監府及關東都督府並其ノ所屬官署ニ在勤スル者ニ在勤スル判任以上ノ官吏ニ之ヲ準用ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法ノ規定ハ統監府及其ノ所屬官署ニ在勤スル者ニ關シテハ明治三十九年二月以降、關東都督府及其ノ所屬官署ニ在勤スル者ニ關シテハ明治三十九年九月以降ノ在職月數ニモ之ヲ適用ス

第五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第六 統監府、關東都督府及樺太等在勤巡查看守及女監取締ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案（書記朗讀）

（書記朗讀）
統監府、關東都督府及樺太等在勤巡查看守及女監取締ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案

明治三十五年法律第二十九號第一條ノ規定ハ別ニ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外統監府及關東都督府並其ノ所屬官署ニ在勤スル巡査、看守及女監取締ニ之ヲ準用ス樺太ニ在勤スル者ニ付亦同シ

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
附 則

本法ノ規定ハ統監府及其ノ所屬官署ニ在勤スル者ニ關シテハ明治三十九年九月以降ノ在職月數ニヨリ之ヲ適用ス

第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

第八 韓國ニ在勤スル居留民獨立在外指定學校職員ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

韓國ニ在勤スル居留民獨立在外指定學校職員ノ退隱料及遺族扶助料ニ關スル法律案

(書記朗讀)

韓國ニ在勤スル居留民獨立在外指定學校職員ニシテ三箇年以上引續キ在職シタル者ニハ在外指定學校職員退隱料及遺族扶助料法ノ在職年數計算ニ於テ其ノ在職一箇月ニ對シ半箇月ヲ加算ス但シ從軍年ノ加算アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ加算ハ任地ニ到著シタル日ニ始ル

附則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前任地ニ到著シタル者ニ付テハ本法施行ノ日ヲ以テ到著ノ日ト看

戴ス

第九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ委員ノ選舉

(政府委員法學博士岡野敬次郎君登壇)

○政府委員(法學博士岡野敬次郎君) 三案提出ノ理由ヲ簡單ニ申述マサト考ヘ
マス、第一ハ統監府及關東都督府等在勤判任以上ノ官吏ヘ臺灣ノ例ニ倣ヒマシテ、
一箇月ニ對シ半箇月ノ加算ノ利益ヲ與ヘヤウト云フノガ本案ノ趣意アリマス、是ハ理
由書ニモ簡単ニ掲ゲテアリマス通り韓國關東州ハ内地ト其事情ヲ異ニシテ居ルノアリ
マスカラ、此恩給ノ上ニ付イテ多少ノ優遇ヲ與ヘルト云フコトヲ必要ト認メタノアリマ
ス、第二ノ案ハ韓國ニアリマス在外指定學校ノ職員ニ付イテヤハリ、第一案ト同一ノ趣
意ニ基キマシテ、均シク退隱料扶助料ノ計算ニ於キマシテ一箇月ニ對シテ半箇月ノ加
算利益ヲ與ヘルト云フノ趣意アリマス、第三ハ是亦臺灣ト同様ノ例ニ倣ヒマシテ前二
案ト同一ノ趣意ニ基キ均シク退隱料扶助料ノ上ニ於テ利益ヲ——特典ヲ與ヘヤウト
云フ趣意アリマス、何レモ簡單ナ案アリマシテ、又何レモ前キニ例ノアルコトアリマシ
テ、政府ニ於テハ之ヲ必要ト認メテ提出シタ次第アリマスカラ、速ニ御協賛アラン
コトヲ希望致シマス

○久保伊一郎君 チヨント質問ガアリマス、此統監府關東都督府在勤官吏ノ恩給及
遺族扶助料ニ關スル法律案是ノ附則ニ「三十九年九月以降ノ在職月數ニヨリ之ヲ
テ、政府ニ於テハ之ヲ必要ト認メテ提出シタ次第アリマスカラ、速ニ御協賛アラン
コトヲ希望致シマス

云云

○久保伊一郎君 チヨント質問ガアリマス、此統監府關東都督府在勤官吏ノ恩給及
遺族扶助料ニ關スル法律案是ノ附則ニ「三十九年九月以降ノ在職月數ニヨリ之ヲ
テ、政府ニ於テハ之ヲ必要ト認メテ提出シタ次第アリマスカラ、速ニ御協賛アラン
コトヲ希望致シマス

云云

ナケレバラスト云フ必要ハ如何ナル理由ニ基クノアルカ、ソレヲ承リタス

(政府委員法學博士岡野敬次郎君登壇)

○政府委員(法學博士岡野敬次郎君) 唯今ノ御質問ニ御答致シマスガ、附則ニア
リマスル月ハ各、統監府關東都督府ノ開闢ノ月ヲ標準トシタルノアリマス、既ニ此韓國關
東州ニ在勤スルトコロノ官吏ニ對シテ特典ヲ與ヘル以上ハ、法律施行ノ時カラヲ標準トス
ルカ、或ハ幾分カ既往ニ過テ同様ノ待遇ヲ與ヘルカト云フコトハ、即チ立法上ノ一ノ
問題アリマスガ、此間何等區別スルトコロノ理由ヲ認メテアリマシテ、既ニ統監
府ガ置カレ關東都督府ガ置カレタ以上ハ、其時ニ過テ同様ノ待遇ヲ與ヘルノガ即チ適
當アラウ、斯ウ認メタ次第アリマス

○恆松隆慶君 此三案ハ一括シテ議題トナツテ居リマスガ、
此三案共議長指名九名ノ委員、即チ同一ノ委員ニ三案共付託スルト云フコトニ御異
論アリマスカ

○議長(杉田定一君) 恒松君發議ノ通り此三案ハ一括シテ議題トナツテ居リマスガ、
此三案共議長指名九名ノ委員、即チ同一ノ委員ニ三案共付託スルト云フコトニ御異
論アリマスカ

(「議長ナシ」ト呼フ者ノリ)

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、其通り決シマス、日程第十、租稅其
他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル法律案第一讀會、議案朗讀

第十 租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル法律案(政府提出) 第一讀會

(書記朗讀)

租稅其ノ他ノ收入徵收處分囑託ニ關スル法律案

第一條 法令ノ規定ニ依リ國稅ヲ徵收セラルヘキ者又ハ其ノ者ノ財產ニシ
テ其ノ法令施行地外ニ在ルトキハ當該官吏ハ本人又ハ財產所在地ノ當該

官吏又ハ吏員ニ其ノ徵收ヲ囑託スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於ケル國稅ノ徵收ハ囑託ヲ受ケタル地ノ當該法令ニ依ル

テ其ノ法令施行地外ニ在ルトキハ當該官吏ハ本人又ハ財產カ其ノ公共團體又ハ之ニ準スヘキ

ヲ徵收セラルヘキ者又ハ其ノ者ノ財產カ其ノ公共團體又ハ之ニ準スヘキ

モノノ區域外ニ在ル場合ニ之ヲ擇用ス

(政府委員吉原三郎君登壇)

○政府委員(吉原三郎君) 本案提出ノ理由ヲ一言致シマスカ、本案ハ内地ト關東
州或ヘ韓國臺灣島トノ間に於キマシテ、相互ニ租稅其他收入ノ徵收處分ヲ囑託シ得
ルト云フコトヲ規定シタイト云フ法律案アゴザイマス、此法案ガゴザイマセスト云フト、内
地テ租稅ノ納稅ノ義務ヲ盡サズシテ、是等ノ地方ニ參リマルトキニ如何トモ徵收ノ處
分ヲ執セコト出来マセヌシ、非常ニ不便ヲ感シマスカラ此本案ヲ設ケマシテ、此徵稅手
續ノ取扱ヲ簡便ニ致シ、且確實ニ致シタイ、斯ウ云々ヲ趣旨ニ外ナラヌノテゴザイマス、宜

○議長(杉田定一君) 別段御質疑ハテイヤウテアリマスカラ、日程第十一、右讀案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉

(七)
○政府委員齊藤十一郎君登壇
「即決賛成」ト呼フ者アリ

○恒松隆慶君 九名ノ委員、議長指名アランコトヲ請ヒマス

○議長(杉田定一君) 恒松君發讀ノ通、議長指名、九名ノ委員ニ付託スルコトニ御異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、日程第十二、裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案第一讀會、讀案朗讀

第十一 裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案(松浦五
衛兵君外一名提出) 第一讀會

(書記朗讀)

裁判所管轄區域變更ニ關スル法律案

明治二十三年法律第六十二號裁判所位置及管轄區域表中靜岡地方裁判所管內掛川區裁判所管轄遠江國榛原郡中川根村及上川根村ヲ同地方裁判所管内

藤枝區裁判所ノ管轄ニ變更ス

附 則

本法ハ明治四十年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前掛川區裁判所ニ於テ受理シタル事件ハ同區裁判所之ヲ裁判ス

(松浦五兵衛君立場)

(遠藤良吉君「松浦君短クヤレ、長クスルトオレハ反對スルア」ト呼フ)

○松浦五兵衛君 檀ク簡單ナモノノスカラ短ク申上ゲマス、此法律案ハ靜岡縣ノ榛原郡ト云フ郡全體ガ昨年本院ヨリ提出致シマシタトコロノ法律案ニ依テ掛川區裁判所

ノ管轄ニ屬シタノアゴザイマシテ、然ルニ其郡ノ中ノ中川根村及上川根村ノ一村ハ郡ハ

同ジウシテ居リマシテモ、非當ニ山ノ奥ニ飛離レタ土地アゴザイマシテ、御承知ノ大井川ノ上流ニ位スル所ア、却フテ藤枝區裁判所ノ方ト密接ノ關係ヲ有シ、取引其他モ其方ト

總テ密接ノ關係ヲ居ルト云フ次第アゴザイマシテ、全ク既年ノ法律ノ改正ハ少シク調査が粗疏ニアタカノ結果ニナラノアゴザイマス、此事ハ地方人民モ非常ニ苦痛ヲ訴ヘ、又政府ニ於テモ其事情ヲ大イニ諒トシテ居ルトコロアゴザイマスカラ、願クハ諸君滿場ノ御賛成ヲ願セマスル同時ニ、政府ニ於テモ御ヲク御不同意ハナイト信シマスニ依テ、若シ政府委員ガ同意ラ此席デナサレタラバ、ドウシ即決ラ以テ貴族院ノ方ニ回スヤウニ諸君ノ御賛成ヲ願ヒマス

○恒松隆慶君 此案ニ付イテハ政府ノ意向ヲ一ツ示リタウゴザイマス

○政府委員齊藤十一郎君登壇
「即決賛成」ト呼フ者アリ
「即決賛成」ト呼フ者アリ

○恒松隆慶君 本案ハドウカ直ニ一讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス、政府モ同意シ實地ニ於テモ誠ニ適當ナ案アゴザイマス

○議長(杉田定一君) 採決致シマス、本案ノ二讀會ヲ開クベシト云フニ御異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、直ニ二讀會ヲ開キマス

○恒松隆慶君 直ニ二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

○議長(杉田定一君) 恒松君發讀ノ通、直ニ二讀會ヲ開クニ御異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、直ニ二讀會ヲ開キマス

○恒松隆慶君 読會ヲ省略シテ、簡單アリマスカラ、確定セラレンコトヲ望ミマス

○川島龍藏君 此施行期間ガ「四月一日」ヨリトシテアゴザイマスガ、是ハ實際行ハレヌコト、思ヒマスカラ、「七月一日」ト修正致シタイ

〔松浦五兵衛君「行ハレマス」ト呼フ、恒松隆慶君「政府ガ同意シテ居ルカラ蓋玄ナシ」ト呼フ〕

○議長(杉田定一君) 恒松君發讀ノ讀會ヲ省略スルト云フニ御異議ハアリマセヌカ
〔「異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス——本案ニ御異議ハアリマセヌカ

〔「異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス、是ニテ本案ハ確定ラ致シマシタ、日程第十三、國有林野拂下ニ關スル建議案、讀案朗讀

第十三 國有林野拂下ニ關スル建議案(藤金作君提出)

(書記朗讀)

國有林野拂下ニ關スル建議案

戰後經營ノ要ハ民業ノ發展ヲ圖ルヨリ急ナルハ無ク無用ノ政費ヲ省クヨリ善キハ無シ然ルニ政府ハ帝國ノ全面積約三千萬町歩ニ對シ一千二百萬町歩ノ林野ヲ領有シ年々徒ニ多額ノ經費ヲ投シテ、アリ爲ニ些少ノ收入アリト雖其ノ收入ハ舊藩時代ノ遺木賣却代ニシテ固ヨリ純益ニ非サルコト何人モ

知ル處ナリ若其ノ林野ヲ民有ニ移スト假定セムカ其ノ無税地ハ忽チ變シテ
有租地トナリ政府ノ歳入ハ著ク増加セム假ニ其ノ拂下代價ヲ十億圓アリト
セムカ政府ハ國債ノ利子五千萬圓ヲ減スルヲ得ヘシ翻テ全國農民ノ現狀ヲ
觀察スレハ開墾スヘキノ耕地ナク經營スヘキノ林野ナク其ノ眼前ニ横レル
多大ノ林野ハ國有トシテ殆ト放棄セラレ毫モ民業ノ發展ヲ助クルコト無レ
豈無謀ト言ハサルヘケムヤ從來政府ハ不要存置林野ノ拂下ヲ行ヒツアリ
ト雖畢竟始息ニシテ拂下ノ段別頗ル少ナク到底戰後ノ經營ニ資シ國運ノ發
達ニ伴フ能ハサルナリ一面商工業者ニ對シ八百餘萬圓ノ經費ヲ投シテ保護
獎勵ヲ加ヘツアルニ比スレハ實ニ雲泥ノ差アリト言フヘシ誠ニ痛歎ニ堪
ヘサルナリ故ニ政府ハ國有林野トシテ經營シ經濟上有益ナル大面積ノ林野
ノミヲ保留シ其ノ他ハ速ニ拂下ケ以テ農業ノ發達ヲ圖ルヘシ

(參照)

第一表

全國山林面積累年比較表

年度別	國有林	御料林	公有社寺私有林	合計
三十三年度	一三〇七、六九〇	二〇九一、七八五	七四三〇、一二九	三二五九、〇四〇
三十四年度	一三〇九、七九三	二〇八〇、三五五	七四三九、〇四〇	三二六三、一〇九
三十五年度	一三一〇、七五五	二一〇三、七六六	七四三九、〇四一	三二六四、一四一
三十六年度	一三一三、五六七	二一〇五、二一〇	七四五二、一七〇	三二六五、大五二
三十七年度	一三一四、五六九	二一〇六、一一一	七四五三、六五五	三二六六、一〇三
平均	一三一四、五六九	二一〇六、一一一	七四五三、六五五	三二六六、一〇三

備考

本表ハ全國山林ノ總面積ヲ示メサムカ爲ニ作リタル者ニシテ大林區署主管ノ分ハ勿論北海道、小笠原島及ヒ伊豆七島ノ國有林ヲ包含セリ

全國ノ總面積ハ大約三千萬町歩ニシテ其内山林ハ二千二百萬町步餘即チ七割三分強ニ當レル
コト木表最下段ノ如シ而シテ二千二百萬町步ノ内國有ニ屬スル分一千二百萬町步餘即チ總山
林ノ五割四分強ニ當レルコト又本表最上段ノ如シ森林事業ノ等閑ニ附ス可ラサルコト亦以テ
知ルヘキナリ

第二表

國有山林內譯累年比較表

年度別	保安林	供用林	部分林	合計
三十三年度	七九、三〇九	七三、三七、四〇四	七三、四九、五	一七〇、四一七
三十四年度	八〇、八一三	七三、三七、四〇五	七六、〇〇八	一七一、〇一〇
三十五年度	八一、八九七	七八、九三九	七五九、六二六	一七二、〇一〇
三十六年度	八二、八九五	八一、五大六	七四〇、七三三	一七三、〇一〇
三十七年度	八三、八二三	大、九七七、一四七	七三七、〇一一	一七四、〇一〇
平均	八〇、四六七	七八、四二	七四九、五一四	一七四、〇一〇

備考

本表ハ大林區署主管ノ分丈ヲ掲タル者ニシテ北海道廳主管ノ分ヒ東京府ニ委託セル伊豆七島小笠原島ノ國有林ハ之ヲ省ケリ

第三表

國有林面積ニ對シ推定地價地租累年比較表

年度別	面積	推定地價	推定地租
三十三年度	七五八〇、二〇八	二六、五三〇、七八八	一、四五九、一九〇
三十四年度	七五八九、六二六	二六、五三〇、七八八	一、四五九、一九〇
三十五年度	七五九〇、三四九	二六、五三〇、七八九	一、四五九、一九〇
三十六年度	七五九一、〇五五	二六、五三〇、七八九	一、四五九、一九〇
三十七年度	七五九二、〇五五	二六、五三〇、七八九	一、四五九、一九〇
平均	七五九一、〇五五	二六、五三〇、七八九	一、四五九、一九〇

備考

本表ノ面積ハ第二表ト同シ大林區署主管ノ分ノミナリ
推定地價ハ民有山林ノ平均地價ヲ標準トシ一段歩三十五錢トシテ前項ノ面積ニ乘シタル者ナリ

第四表

國有森林收入累年比較表

年度別	大林區經營收入	道廳及府縣經營收入	大林區臨時收入	合計
三十三年度	二〇六〇、四一七	一〇七、三〇〇	一、五二三、四七三	四、七八、二二〇
三十四年度	二一、七六、五三一	一七一、〇八七	三、八九、一二四	六、一大六、七三三
三十五年度	二、五八八、七〇七	一六〇、九九一	五、〇八二、八七七	七、八三二、五七五
三十六年度	二、六〇八、九四四	一六四、〇九九	一、三七、五三一	四、四五、四三五
三十七年度	二、八八四、七九九	一六四、六二五	一、三九、二〇〇、〇五一	五、三二三、一三九
平均	二、五五八、四七一	一六四、六二五	一、三九、二〇〇、〇五一	五、三二三、一三九

備考
臨時收入ハ林野拂下代ニシテ森林經營ヨリ生シタル収益ニ非ス故ニ政府ハ一千二百萬町歩ノ山林ヲ領有シナカラ其收入ハ毎年平均二百五十萬圓ニ過サル計算ナリ

第五表

國有林主產物賣拂代累年比較表

年度別	用材代	薪材代	竹代	枝條根株代	合計
三十三年度	一、三四六、一〇〇	四四八、〇五三	一四、九〇七	三六、七九九	四、七八、二二〇
三十四年度	一、三七〇、〇九七	四四五、六四六	一七、九一九	三〇、〇五〇	一、四五五、八五九
三十五年度	一、六六四、九六七	五四三、四四〇	八、五四〇	三五、二七二	一、六六六、大二二
三十六年度	一、三三〇、九八一	四九、〇九七	九、八六九	二二、一九九	一、七四三、二一九
三十七年度	一、七五六、九九七	大四五、三三七	五、四七九	二二、六八八	一、七四四、〇二一
平均	一、四五一、八二九	五四二、六七七	九、三三三	二四、〇〇一	一、七四四、〇二一

備考

本表ハ各大林區署ノ主產物ノミヲ示メス者ニシテ北海道ノ如キハ之ヲ省ケリ即チ七百萬町歩ノ國有林ノ主產物ハ毎年僅カニ二百萬圓ニ過キサル計算ナリ

第六表

國有林產物賣拂代累年比較表

年度別	主產物代	副產物代	合計
三十三年度	一、七四五、五五九	一、六六六、六六六	一、八六二、三三五
三十四年度	一、八六六、六二二	一二、七九五	一、九八八、四〇七

三十五年	二二四三、二一九	二二六、九一
三十六年	一七四四、〇二一	一七八、九八三
三十七年	二四三〇、三九一	一四六、九二五
平均	二〇〇六、〇一〇	一三〇、二二二

備考
本表ハ政府カ夥多ノ森林ヲ有シ乍ラ其所得額フル少ナキヲ證明セムカ爲メニ作リタル者ナリ
七百萬町歩ノ森林ヲ以テシテ主産物及ロ副産物ノ賣捕代毎年僅カニ二百十三萬圓ニ過ギスト
ハ如何ニモ信シ難キ統計ナリ然レトモ本表ハ第二十一次農商務統計表ノ吾人ニ報告スル處ナ

第七表

國有森林經費累年比較表

年度別	經常費	臨時費	合計
三十三年	九五、二二五	一〇一、三七六	一九六、三一五
三十四年	一〇九、二五七	一三〇、六九六	二三九、九四四
三十五年	一〇一、三六五	一五三、三八二	二六五、七四七
三十六年	一三八、四八二	一九四、九九八	三一三、四九〇
三十七年	一四二、八七一	一八三、六八一	二九五、五五二
平均	一〇八、六四〇	一五〇、八二六	二五九、四六六

備考

本表ハ各大林區署ノ經費ノミ合計セシ者ニシテ北海道開有林ノ經費ノ如キハ無論本表ノ外

ナリ

第八表

國有林經營收支累年比較表

年度別	經常收入	經常支出	差引國庫純歲入
三十三年	二〇六、四一七	九五、三三五	一三六、三五
三十四年	二一七、五三三	一〇九、二五七	一四八、九四四
三十五年	二五八、七〇七	一〇二、三五五	一四九、二六五
三十六年	二〇八、四四四	一一八、四八二	一五七、二六五
三十七年	二八四、七六九	一四二、八七一	一四八、四二二
平均	二三五、四七一	一〇八、六四〇	一五八、四三一

備考

本表ハ各大林區署カ年々多額ノ經費ヲ投シテ七百萬町歩ノ森林ヲ經營シ乍ラ其所得ノ甚大僅

少ナルヲ證明セシカ爲メニ作リタル者ナリ

假リニ國有林ニ對シテ民林同様ノ地租ヲ負擔セシメンカ其地租ハ第三表ノ如ク百四十四萬圓

餘ナルカ故ニ本表ノ經營支出額ニ合計スレハ二百五十二萬圓トナリ收支相償ハサル道理ナリ

第九表

國有林野關係職員俸給比較表

官名	人員	俸給	官名	人員	俸給
書記官	三人	五、三〇〇	事務官	一人	一七
鑑定官	二五	二九、五五〇	官師	二六	五、三〇〇
技术官	二	一六〇	林務官	二	一六〇
監事	六一	三一、二七五	官員	八四九	一四四〇
備考		八五、四〇〇		九三	八〇、三〇〇
		二八一、三三六			一六〇

第十表

國有林野被害價額累年比較表

年度別	盜伐	火災	其他	合計
三十三年	三九一、三一五	三一、一七〇	八七、二九七	五〇九、七八二
三十四年	三六六、三五	一七〇、二七〇	八七、四三三	三九四、五五四
三十五年	一四八、九四四	七五、〇八三	一一五、二六一	三九、三三九
三十六年	一二九、三一〇	四八、八三九	五〇、大九八	三八、八四七
三十七年	四五三八六	七五、六二二	四五、六七七	六六、四七五
平均	一七〇、二七一	八〇、一九六	七七、二三一	三七、六九九

備考

表中風害ヨリ生スル分ハ之ヲ省ケリ

盜伐ヨリ生スル損害ハ本表ノ如ク毎年平均十七萬圓ナリ然レトモ此ノ十七萬圓ハ公然知り得

ラレタル金額ノミノ未タ公知セラレサル分ヲ吟味セハ少ナク七十倍ヲ下ラサルヘシ故ニ

盜伐ノ爲ニ蒙ル年々ノ損害ハ之ヲ八十七萬圓トスル方擧ロ當然ナラン

火災其他ヨリ生スル損害ハ本表ノ如ク毎年平均十五萬圓位ナルヘシ

故ニ若シ地元町村ノ利益ノ爲ニ國有林野ニ町村統ヲ謀シ其林野及ロ產物ヲ拂下タル每ニ

代價ノ幾分ヲ交付セシカ地元町村ノ人民ハ營利ノ爲ニノ利益ノ爲ニノ利益ノ爲ニノ利益ノ爲ニ

ヲ増サシムニ至ラン又公賣價格ノ如キモ必ス正當ニ行ハルニ至ラン隨テ町村ニ與フヨリ

以上ノ收入ヲ增加スヘシ

第十一表

國有林野關係犯罪人員累年比較表

年度別	有罪	無罪	有罪	無罪	有罪	無罪	合計
三十三年	二、九二八	二七八	二七	二四	三、一四五	三〇一	五〇九
三十四年	三〇七	三八九	三九	二四	三、四七五	四一	五二
三十五年	二、八六四	二八五	二五九	七三	三、一二三	三五八	五〇九
三十六年	二、五四〇	二八五	一四七	四八	二、六八七	三三三	四二一
三十七年	一、五八九	一七一	一四九	二三	一、七三六	一九五	三一〇
平均	二、五九	二八一	一三四	三八	二、八三三	三一〇	四二九

備考

本表ハ各大林區署カ年々多額ノ經費ヲ投シテ七百萬町歩ノ森林ヲ經營シ乍ラ其所得ノ甚大僅

少ナルヲ證明セシカ爲メニ作リタル者ナリ

表中有罪ノ平均人員二千八百三十三人ニ付一人平均九十圓三十錢宛ノ經費ヲ要ストスレハ其

額約二十五萬圓ナリ

塗難ヨリ生スル國有林ノ損害ハ第十表ノ如ク少ナクモ百八十七萬圓ヲ下ラサルヘシ

火災其他ヨリ生スル損害モ亦毎年平均十五萬圓ナリ

以上三口ヲ合計スレハ國家ハ單ニ山林ノ爲ニ毎年二百二十七萬圓宛ノ損害ヲ受ケ居ル計算

技
森
林
主
事
合
計
備
考
本表ハ政府カ林業經營ノ爲ニ如何ニ多クノ吏員ヲ養ヒ如何ニ多クノ冗費ヲ搜シツアルカ
ヲ證明セムカ爲メニ作リタル者ナリ
三千餘人ノ吏員ヲ使役シ百萬圓内外ノ俸給ヲ與ヘテ年々國力ヲ消耗シツアルハ是レ實ニ我
國林政ノ現狀ナリ

第十一表 民有林段別其他累年比較表(毎年一月一日現在)

年別	段別	地	價	推算租稅費總額
三十一年	大九五九、五四四	二四、七九九、五一〇	二五五九、四二九	二四、五八一、七〇〇
三十二年	大九五九、五四四	二四、七九九、五一〇	二五五九、四二九	二四、六〇三、五二〇
三十三年	大九五九、五四四	二四、七九九、五一〇	二五五九、四二九	二四、六一五、一四一
三十四年	大九五九、五四四	二四、七九九、五一〇	二五五九、四二九	二四、六二八、五七一
三十五年	大九五九、五四四	二四、七九九、五一〇	二五五九、四二九	二四、六四一、五〇九
三十六年	大九五九、五四四	二四、七九九、五一〇	二五五九、四二九	二四、六五四、五二一
三十七年	大九五九、五四四	二四、七九九、五一〇	二五五九、四二九	二四、六六七、五三一
三十八年	大九五九、五四四	二四、七九九、五一〇	二五五九、四二九	二四、六八〇、五四一
三十九年	大九五九、五四四	二四、七九九、五一〇	二五五九、四二九	二四、六九三、五五二
四十一年	大九五九、五四四	二四、七九九、五一〇	二五五九、四二九	二四、七一六、五六一
備考	均	二四、七九九、五一〇	二五五九、四二九	二四、七三九、五七一

推算租稅費總額ハ本表ノ地價ニ對シ地租百分ノ五箇半、府縣稅、町村稅、百分ノ五箇ト假定シ合
人民ハ七百萬可歩ノ山林ヲ以テシナ二百六十萬圓ノ租稅ヲ負擔シ尙ホ相當ノ利益ヲ收メ居レ
リ故ニ國有ノ山林ニ對シテ本表ノ如ク租稅ヲ賦課スルモ政府ハ尙ホ多少ノ純益ヲ得ヘキ筈ナ
リ而シテ事實ハ之ニ反シ政府ハ年々多額ノ損失ヲ蒙レリ是レ余カ林政ノ刷新ヲ唱道スル所以
ナリ

第十二表

國有林利害推算表

年度別	現在段別	推定地價	租稅費總額	國庫諸收入	差引損失
三十三年度	セ、五八〇、一〇八	二六、五三〇、七一八	二、七八五、七六二	一、〇九三、一九二	一、六九〇、五三四
三十四年度	セ、五八九、六二六	二六、五三〇、大九一	二、七八九、一八七	一、五七二、六五二	一、六三一、九三二
三十五年度	セ、五九〇、三四六	二六、五三〇、大九一	二、七八四、七九一	一、四八六、三四二	一、五九八、四一〇
三十六年度	セ、五九〇、三七三	二六、五三〇、大九一	二、七八四、七九一	一、四八六、三四二	一、六一〇、五七五
三十七年度	セ、五九〇、三七三	二六、五三〇、大九一	二、七八四、七九一	一、七四一、六九八	一、六九六、五五七
平均	セ、五九〇、五二四	二六、五三〇、大九一	二、七八四、七九一	一、二六八、六三一	一、四八七、二四〇
備考	均	二六、五三〇、大九一	二、七八四、七九一	一、二六八、六三一	一、四八七、二四〇

現在段別ハ第二表ノ如ク大林區署主管ノ分ノヨナリ

推定地價ハ第三表ノ如ク一段歩三十五錢トシテ假算セシ者ナリ

租稅費總額トハ地租ヲ百分ノ五箇半トシ府縣稅町村稅ヲ百分ノ五箇半トシ前項ノ地價ニ對シテ
都合十箇半ヲ乘シタル者ナリ
國庫純收入ハ第八表ノ經營收入ト支出トノ差引損額ニシテ即チ森林經營ノ所得ト經營トヲ差
引キタル純益ナリ
政府自ラ夥多ノ森林ヲ經營セス之ヲ民業ニ移サハ表中租稅費總額ノ欄ニ記スカ如ク年々二百
七十萬圓以上ノ收利アルヘキニ實際國庫ノ收入ハ每年平均百二十萬圓計ニ過キス即チ差引損
失ノ額ニ示スカ如ク國家ハ年々百四十萬圓既ノ損失ヲ蒙リツワアル計算ナリ
翁國有林野ノ價格ハ少少五十億圓餘トスレハ每年其ノ利子ヲ併テ放棄シツアリ

第十四表

國有林對民有林損益累年比較表

| 年度別 | 國有林 | 同上 |
|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 三十三年度 | セ、五九〇、三〇八 | 一、〇九〇、一九一 |
| 三十四年度 | セ、五九〇、三〇八 | 一、〇九〇、一九一 |
| 三十五年度 | セ、五九〇、三〇八 | 一、〇九〇、一九一 |
| 三十六年度 | セ、五九〇、三〇八 | 一、〇九〇、一九一 |
| 三十七年度 | セ、五九〇、三〇八 | 一、〇九〇、一九一 |

平均 民有林ハ三十五年ヨリ三十九年ニ至ル毎第一月一日ノ現在數ナリ

人民自飼ノ山林ハ平均百町步ニ村三十六國強ノ租稅ヲ負擔スルモ尚且フ相當ノ利益アルニ反
シ官營ノ山林ハ平均百町步ノ純收入十六國強ニ過キサルコト本表ノ如シ是レ我カ現行林政ノ
其當ヲ得サム因證ナリ

備考總說

國後經營ノ策トシテ森林事業獎勵ノ急務ナルコト何人モ認ム處ナリ然ルニ今日
ノ如ク政府自ラ夥多ノ森林ヲ領有シ毫モ刷新ヲ圖ラサルハ果シテ何カ爲ナルカ試ミニ
我國林業ノ現狀ヲ見ヨ國有ノ森林ハ大林區署主管ノ分ノミニテモ其面積約七百
五十萬町步ニシテ其收入ハ約二百二十萬圓ニ過キス更ニ其收入ヨリ支出ヲ差引ケ
ハ純收入ハ僅々百二十萬圓許ニシテ一町步ニ割當ツレハ僅カニ十六錢九厘ニ過
キス其不利益ナルコト蓋クヘキニアラスヤ

假リニテ民業ニ移シテ計算セヨ現在ノ民有林ハ約七百萬町步ニシテ毎年平均約
二百六十萬圓ノ租稅ヲ負擔セリ左レハ前記七百萬町步ノ官林ヲ民有ニ移サンカ國
家ハ爲ミニ少ナクモ毎年一二百七十萬圓ノ租稅ヲ得ラルヘク一町步ニ付アハ三十六
錢八厘ヲ得ラルヘキ筈ナリ斯クノ如ク民業ニ移セハ總額ニ於テ二百七十萬圓ヲ得
一町步ニ付三十六錢八厘ヲ得ヘキニ政府之ヲ直營スルカ故ニ總額ニ於テハ百二十
萬圓一町步ニ付三十六錢九厘ヲ得ヘキニ止マリ即チ總額ニ於テ百五十萬圓一町
步ニ付十九錢九厘既ノ損失ヲ受ケ居ル勘定ナリ政府直營ノ不利益ナルコト蓋シ知
ルヘキナリ況シヤ官業ト民業トノ損益ヲ吟味スレハ官業ノ不利ナルコト決シテ右ノ計
算ノミニ止マラサルニ於テラヤ

國有林ノ地代ト其立木代トハ少ナクトモ一段平均十圓ニハ當ルナラン假リニ十圓ト
シテ推算センカ大林區署主管ノ山林ノミニテモ七百四十九萬町步ナルカ故ニ其實
拂代金ハ内地ノミニテ無慮七億四千九百萬圓ノ多キニ上ル而シテ此ノ七億四千九
百萬圓ヨリ年ニ朱ノ利益ヲ生マシムルモ其額亦一千二百四十七萬圓ノ多キニ上ル政
府ハ斯ル巨額ノ資產ヲ有シ乍ラ毎年僅カニ百二十萬圓ノ利益ヲ收メ居ルノミ否ナ此
ノ百二十萬圓ノ利益スラ其實決シテ純然タル利益ニハ非ラサルナリ試ミニ國有林野ノ
爲メニ生スル間接ノ経費及ヒ損害ヲ吟味セヨ政府ハ毎年第十表及ヒ第十一表ノ備
考ニ示スカ如ク

林野犯罪人費

二十五萬圓

盜伐ヨリ生スル損害

一百八十七萬圓

火災其他ヨリ生スル損害

十五萬圓

地租其他ノ諸稅免除分

一百六十萬圓

合計

一千七百三十四萬圓

宛ノ損害ヲ蒙リツアリ故ニ實績ノ計算ヲ舉クレハ當ニ収益ナキノミナラス政府ハ七
億四千九百萬圓ノ財産ノ爲メニ毎年損失ヲ蒙ムレルコト無慮一千七百萬圓ヲ下ラ

サル譯合ナリ愚モ亦甚シカラズヤ

林業ノ最ヨ通歩セル猶過邦ノ林業報告ニ據レハ其ノ森林ノ純益ハ平均一町歩
ニ付十八圓二十五錢ニ當リ本邦ノ國有林ハ結局平均一町歩ニ付反對ニ三圓六
十五錢ノ損失ニ當ル

要ブルニ國有林ノ利金總カラサルハ

一 當局吏員ノ職務ニ忠實ナラサル事

二 林野及ヒ其產物拂下ニ弊害多キ事

三 盜伐火災等ノ防禦行居カサル事

四 地元人民多クハ國有林野ヲ敵視スル傾キアル事

等種々ノ原因アルカ爲ナリ

故ニ若政府カ拂下ヲ惜ニ釐テハ國有林モ民有林ト同様府縣稅町村稅ヲ負擔スル
者トシ尙本林野及ヒ其產物拂下ノ場合ニハ地元町村ニ對シテ其代金ノ幾分(約百
分ノ五)ヲ充當スル事ニ改ヘン

右ノ如キ方法確定セムカ從來國有林ヲ敵視セシ人民モ忽チ之ヲ愛護スルニ至ルヘタ
隨テ官吏ノ怠慢拂下ノ弊害等モ遂ニ其跡ヲ絶ソニ至ラム而テ歲入ノ增加スル事明
白ナリ

林政茲ニ刷新セラレ積弊辛ニ一掃セラレ政府爲メニ二千七百萬圓ノ新歲入ヲ得ル
ニ至ラムカ政府ハ依テ以テ鹽專賣ヲ廢スルヲ得ヘク大規模ノ耕地整理ヲモ行ヒ得ヘ
シ故ニ本業ハ單純ナル林政上ノ小問題ニ非フシテ實ハ國家經濟上ノ大問題タルヲ
信ス

第十五表

議會開設前人口、耕地、租稅額比較表

人	口	田畠段別	租稅總額	一人當稅
二十三年	四〇、四三三、四六一	五一九、八八五	一四二、四二三	一四二、四二三
三十一年	四三、二三八、八六一	五〇一、八六〇	一四一、四六六	一四一、四六六
四十一年	四七八七九、〇〇〇	五六二、九三五	一四二、八七九	一四二、八七九
對二十三年三 十年ノ增加 同上四十年ノ 增加	二七七、四〇一 九、〇二五	三四五、八七九、四四 三五、〇一、七〇一	一四二、八七九 一四二、七一七	一四二、八七九 一四二、七一七
七四二、五三九	五九九、五〇九			

備考

人口ハ毎年末ノ現在數ナリ但四十年分丈ハ三十八年末ノ現在數ヲ使用セシ者ナリ
田畠段別モ亦毎年末ノ現在數ナリ但シ四十年分丈ハ三十九年一月一日ノ現在ナリ
租稅總額ハ二十三年度及三十年度ハ決算四十年度ハ豫算ナリ

○議長(杉田定一君) 賦金作君

〔「ドウア委員會ア願ヒマス」ト呼フ者アリ〕

○恒松隆慶君 此場合アザリマスカラ、提出者ノ説明ヲ略シテ、其代リ委員ハ十八

名、議長ノ指名ニナランコトヲ望ミマス

○議長(杉田定一君) 恒松君發言ノ通り、議長指名十八名ノ委員ニ太索ヲ付託ス
ルニ御異議ハアリマセメカ

〔「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(杉田定一君) 御異議ハナイト認メマス——日程第十四、第二高等農林學
校位置選定ニ關スル建議案ヲ讀題ト致シマス

第十四 第二高等農林學校位置選定ニ關スル建議案(神崎東 藏君外九名提出)

(書記朗讀)

第二高等農林學校位置選定ニ關スル建議案

明治四十年度總預算歲出臨時部文部省所管ニ創立費ヲ計上シタル第一高等
農林學校ヲ鹿兒島縣下ニ設立セムトスルハ穩當ナル體置ノ選定ニ非スト認
ム依リテ更ニ他ニ適當ナル位置ヲ選定セラレムコトヲ望ム

右建議ス

○議長(杉田定一君) 是ハ提出者神崎東藏君ヨリ延期ノ申出ガアリマス
〔「延期ニ反對」ト呼ヒ、恒松隆慶君「斯ウ云フ問題ハ直チニ可否ヲ決シタウゴ
ザリマス」ト呼フ〕

○議長(杉田定一君) 延期ニ御同意ノ諸君ハ起立ヲ願ヒマス

起立者 少數

○議長(杉田定一君) 少數アリマス、本案ハ議題トナリマシタ
〔「反對」ト呼ヒ「採決」ト呼フ者アリ〕

○議長(杉田定一君) 紹谷義三君

(紹谷義三君登壇)

○紹谷義三君 議君唯今問題トナリテ居リマスル 第二高等農林學校ノ位置選定ニ
關スル建議案ニ對シマシテハ、私ハ即決否決ヲ希望スルトコロノ一人デゴザリマス、實ハ此
壇ニ登リマシテ反對ヲ試ミマスルコトハ、甚ダ私モ遺憾ニ感マス、本案ニ對シマシテハ
定メテ提問者ノ御説明ガアルコト、存ラマシタガ、其御説明セナイノニ、私が此處ニ反
對ヲ申述べマスコトハ、甚ダ敵ノナイニ矢ヲ放ツト云フヤウナ嫌ヒガゴザリマシテ、實ハ遺
憾ニ存ジマスガ(「權利ヲ拋棄シタンダ」ト呼フ者アリ)既ニ本院が唯今此議事ヲ御進
呈ニ換テ吳レゾレガ一般ノ冀望アルト云フヤウナコトガ理由書ニ書イテゴザリマス、其
適當ノ位置トハ果シテ如何ナル所ヲ意味セラレテ居ルカ、又其一般ノ冀望ト云フコトハ、
如何ナルコロノ與論ヲ御指シニナクテ居ルカ、殆ド是ハ了解ニ若シムノアリマス、或ハ

提出者ハ此農林學校ナルモノガ、九州ニ置カレルノアルカラシテ、之ヲ以テ九州ノ農林學校デアルト云フヤウナ御考ヘガアルカモ知レナイ、併ナガラ是ハ言フマデモナク九州ノ農林學校デハナインデアリマス、若シ是ガ九州ノ農林學校デゴザリマシタナラバ、或ハ九州ノ中央ノ地ヲ選定スルコトモ相當カハ存シマセヌケレドモ、此學校ハ決シテ九州ノ學校デハナイ、即チ帝國政府ノ學校デアリマス以上ハ、我農林ノ即チ此教育上ノ大方針カラ割出シテ、其適當ナル位置ヲ定メナケレバナラヌノデアリマス、而シテ此方針ヨリ考ヘテ見マシテモ、政府が其位置ヲ鹿兒島ニ取りマシタコトハ、本員ハ毫毛之ニ反對スベキトコロノ意見ヲ持チマセヌノデアリマス、大體此配置ノ上カラ考ヘマシテモ、亦其學校ノ性質カラ考ヘテ見マシテモ、御承知ノ如クニ北海道ニハ彼ノ札幌農學校ナルモノガゴザリマス、又東北ニモ第一高等農林學校ガゴザリマス、而シテ此氣候ノ即チ寒イトコロノ國ニ適當シタル農業、若クハ林業等ニ關スル講究ヲ爲スベキ機關が備ツテ居ル、而シテ此度置キマスモノハ即チ此南ノ端ノ氣候ノ暖ナルトコロノ地方ニ適當ナル研究ヲシャウト云フノデアリマスカラシテ、出來得ル限リハ是ヘ南ノ方ニ持ツテ往クノガ相當テアリマス、若シモ事情ガ許シタナラバ、此種ノ學校ハ或ハ臺灣ニ設置スルノガ相當アルカモ知レマセヌ、併ナガラ臺灣ノ現狀ハ未ダ斯ノ如キトコロノ學校ヲ設置スルニ適當シテ居リマセヌ、斯ル故ニ之ヲ我邦ニ於キマシテ、氣候ノ最モ暖ナル鹿兒島ニ位置ヲ選ビマシタコトハ、誠ニ是ハ相當ナ選定ニアラウト考ヘマス、殊ニ此農林學校ヲ設置シマスニ付キマシテハ、種々ナル教育資料ヲ集メマス上カラ考ヘテ見マシテモ、成ルベク之ヲ南ノ方ニ持ツテ參リマシテ、彼ノ琉球デアルトカ、或ハ臺灣デアルトカ、若クハ南洋諸島ニ接近シタルトコロノ鹿兒島ニ置キマシタナラバ、則チ此教育資料ヲ蒐集スル上ニ於キマシテモ、多大ノ便利ガアルノデアリマス、況ヤ我邦ハ將來追々南ノ方ニ發展シヤウト致シマスノニハ、鹿兒島ノ位置ニ學校ヲ置イテ、サウシテ諸般ノ研究ヲスルコトニ、多大ノ便益ヲ有スルコト、信ヲマスルガ故ニ、政府が此學校ノ位置ヲ鹿兒島ニ選定シマシタコトハ、誠ニ適當ナルトコロノ理由ヲ見出サヌノデゴザイマス、尙此案ニ反對シマスルトコロノ理由ハ、是ハ申述ベヤウト致シマスレバ幾ラモゴザイマスケレドモ、併ナガラ提出者ハモウ既ニ御説明モナインデゴザイマスカラ、吾々ハ只、此場合ニ於キマシテハ、諸君が速ニ此案ヲ否決セラレシコトヲ茲ニ希望致シテ置キマス

(神崎東藏君登壇)

○神崎東藏君 唯今議題ニナシテ居リマスル高等農林學校ノ位置ニ關シマスル建議案、是ハ私が提出者ト致シマシテ、提出ノ理由ヲ述ベルコトニ致シテ居リマシタガ、今日ハ院ノ體面ニ關スル特別委員會が開カレテ居リマシタノデ、其方へ身ヲ取ラレマスルカラシテ、延期ト云フコトヲ願ツテ置キマシタガ、其延期ヲ御採用ニナランクッテ後レ馳ニ此處何故ニ鹿兒島ノ如キ邊僻ナ、交通不便ナ所ニ設ケルコトニ極メタシテアルカト云フ問題

ニ對シマシテ、豫算委員會ニ於ケル大臣ノ答辯ハ、丁度唯今ノ御演説ト餘り趣意へ變ラヌヤウデゴザイマシタガ、鹿兒島ノ向フニ大島ト云フ所ガアル、其大島ガ暖イ國デアルカラシテ、熱帶地方ノ植物其他ノ研究ヲスルノニ非常ニ便利アル、是故ニ鹿兒島ニ置クノデアル、斯ウ云フ位ノ單純ナ理由デゴザイマシテ、外ニハ何等ノ理由ヲ見出サナカツタノハナク、即チ帝國政府ノ學校デアリマス以上ハ、我農林ノ即チ此教育上ノ大方針カラ割出シテ、其適當ナル位置ヲ定メナケレバナラヌノデアリマス、而シテ此方針ヨリ考ヘテ見マシテモ、政府が其位置ヲ鹿兒島ニ取りマシタコトハ、本員ハ毫毛之ニ反對スベキトコロノ意見ヲ持チマセヌノデアリマス、大體此配置ノ上カラ考ヘマシテモ、亦其學校ノ性質カラ考ヘテ見マシテモ、御承知ノ如クニ北海道ニハ彼ノ札幌農學校ナルモノガゴザリマス、又東北ニモ第一高等農林學校ガゴザリマス、而シテ此氣候ノ即チ寒イトコロノ國ニ適當シタル農業、若クハ林業等ニ關スル講究ヲ爲スベキ機關が備ツテ居ル、而シテ此度置キマスモノハ即チ此南ノ端ノ氣候ノ暖ナルトコロノ地方ニ適當ナル研究ヲシャウト云フノデアリマスカラシテ、出來得ル限リハ是ヘ南ノ方ニ持ツテ往クノガ相當テアリマス、若シモ事情ガ許シタナラバ、此種ノ學校ハ或ハ臺灣ニ設置スルノガ相當アルカモ知レマセヌ、併ナガラ臺灣ノ現狀ハ未ダ斯ノ如キトコロノ學校ヲ設置スルニ適當シテ居リマセヌ、斯ル故ニ之ヲ我邦ニ於キマシテ、氣候ノ最モ暖ナル鹿兒島ニ位置ヲ選ビマシタコトハ、誠ニ是ハ相當ナ選定ニアラウト考ヘマス、殊ニ此農林學校ヲ設置シマスニ付キマシテハ、種々ナル教育資料ヲ集メマス上カラ考ヘテ見マシテモ、成ルベク之ヲ南ノ方ニ持ツテ參リマシテ、彼ノ琉球デアルトカ、或ハ臺灣デアルトカ、若クハ南洋諸島ニ接近シタルトコロノ鹿兒島ニ置キマシタナラバ、則チ此教育資料ヲ蒐集スル上ニ於キマシテモ、多大ノ便利ガアルノデアリマス、況ヤ我邦ハ將來追々南ノ方ニ發展シヤウト致シマスノニハ、鹿兒島ノ位置ニ學校ヲ置イテ、サウシテ諸般ノ研究ヲスルコトニ、多大ノ便益ヲ有スルコト、信ヲマスルガ故ニ、政府が此學校ノ位置ヲ鹿兒島ニ選定シマシタコトハ、誠ニ適當ナルトコロノ理由ヲ見出サヌノデゴザイマス、尙此案ニ反對シマスルトコロノ理由ハ、是ハ申述ベヤウト致シマスレバ幾ラモゴザイマスケレドモ、併ナガラ提出者ハモウ既ニ御説明モナインデゴザイマスカラ、吾々ハ只、此場合ニ於キマシテハ、諸君が速ニ此案ヲ否決セラレシコトヲ茲ニ希望致シテ置キマス

(神崎東藏君登壇)

○神崎東藏君 唯今議題ニナシテ居リマスル高等農林學校ノ位置ニ關シマスル建議案、是ハ私が提出者ト致シマシテ、提出ノ理由ヲ述ベルコトニ致シテ居リマシタガ、今日ハ院ノ體面ニ關スル特別委員會が開カレテ居リマシタノデ、其方へ身ヲ取ラレマスルカラシテ、延期ト云フコトヲ願ツテ置キマシタガ、其延期ヲ御採用ニナランクッテ後レ馳ニ此處何故ニ鹿兒島ノ如キ邊僻ナ、交通不便ナ所ニ設ケルコトニ極メタシテアルカト云フ問題

ノデゴザイマス、三年四年ヲ待ツト云フコトハ、學問ノタメニハ非常ナル不利益アルト云フコトヲ私ハ信ズルノデゴザイマス、殊ニ又鐵道方針ノ如キハ、始終グラ～～變ルノデゴザイマスカラ、果シテ三年四年ニ出來ルノアルカ、是トテモ容易ニ信用ハ出來ナイト云フコトハ、當然ナコトデアラウト私ハ信ズルノデゴザイマス、學問ノ普及、學問ノ研究ト云フ上カラ往キマシタナラバ、成ルベク便利ニ、成ルベク費用が少ナクシテ島ノ如キ邊僻ナ位置ヲ選ベレタノハ、私ハ誠ニ當局者ノ量見が分ラナイト思フノデゴザイマス(「鐵道が出來マス」ト呼フ者アリ)鐵道ハ成程出來マセウ、鐵道ハ出來マセウガ併ナガラ今日ノ鐵道ノ方針ニ依ツテハ、マダ二年カ四年モ掛ラナケレバ鐵道ハ完成シナイノデゴザイマス、三年四年ヲ待ツト云フコトハ、學問ノタメニハ非常ナル不利益アルト云フコトヲ私ハ信ズルノデゴザイマス、殊ニ又鐵道方針ノ如キハ、始終グラ～～變ルノデゴザイマスカラ、果シテ三年四年ニ出來ルノアルカ、是トテモ容易ニ信用ハ出來ナイト云フコトハ、ソセレト云フ方針ヲ採ラナケレバナラヌノハ當リ前デアルニモ拘ラズ、特ニ此鹿兒島ノ如キ邊僻ナ位置ヲ選ベレタノハ、私ハ誠ニ當局者ノ量見が分ラナイト思フノデゴザウ～～（氣象臺ノ報告ヲ見レバ直グ分ルコトデ、苟モ此地理學ヲ知ツテ居ルモノハ直グ分リマス、鹿兒島モ、能木モ、大分モ、宮崎モ變ルコトハナシ、福岡モ變ルコトハゴザイマセ

スノアリマスルカラシテ、詰リ（遠藤良吉君「ソンナコトハナイ」ト呼フ）必ズ變ルコトハナ
イ、御前ノヤウナ漢學者ニ分ルコトデナ、能ク聽イテ居ルガ宜イ、免モ角ニ季候ト云フ

モノヲ土臺トシテ、暖イトコロニ置カナケレバ先刻ノ論者ノ云フ如ク、臺灣ヘ持テ往クト云
フコトハ、大キナ間違アル、ソレナラバ先刻ノ論者ノ云フ如ク、臺灣ヘ持テ往クト云
ラウ、沖繩ヘ持テ往クテモ宜カラウ、免ニ角九州ニ此高等農林學校ヲ、學問ヲ普及スル

上カラシテ、果シテ設ケル學校デアルナラバ、ドウシテモ九州ノ中央ニ置イテ、九州ノ子
弟ヲ集メル上ニ於テ、又九州以外ノ子弟ニ便利ニ就學セシムルノ方法ヲ採ラナケレバナ
ラスト確信スルノデアリマス（「九州ノ學校デナイ」ト呼フ者アリ）勿論九州ハカリノ學校デ

ナイ、日本ノ學校デアルケレドモ、場所ヲ九州ニ選ブト云フコトニナフテ居ル、東北ノ學校
ニハ東北ノ子弟が集リ、中央ノ學校三ハ中央ノ子弟が集マルコトハ、各高等學校、各
専門學校ニ於ケル生徒ノ表ヲ御覽遊バセ、廣島ニ在ル學校ニハ廣島方面ノ人が重ニ集
マルデアラウ、岡山ニ在ル學校ニハ岡山方面ノ人が重ニ集マルデアラウ、現ニ鹿兒島ノ造

士館ハ鹿兒島人ハカリデ占メテ居ルト云フコトハ……（「嘘ダ表ヲ御覽爲サイ」ト呼フ
者アリ）表ヲ御覽爲サイト云フコトハ私ガ云ウテ居ルノダ、アナタ方コソ表ヲ御覽爲サイト
云フノデアル、能ク統計表ヲ御覽爲サイ、能ク學校ノ一覽ヲ御覽爲サイ、（「感達ヒダ」

ト呼フ者アリ）勘違ヒテアリマセヌ、要スルニ右ノ如キ理由デゴザイマスルカラシテ、日本ノ
全體ノ子弟ノタメニモ、又特ニ九州ノ子弟ノタメニモ、九州ノ中央ニ設ケルト云フコトが
最毛適當アルト信ジマシタが故ニ、建議者ハ九州ノ中央ノ適當ノ位置ニ選ンテ吳レイ
ト云フ建議ヲ出シタノデゴザイマス、或ハ此點ニ付キマシテ、立法者ガ行政權ノ範圍ニ
立入シテ、學校ヲ何處ニ置ケトカ、此處ニ置ケトカ云フコトハ、誠ニ不適當アルト云フ

御議論ノアルコトヲ耳ニ致シマシタ、此事ハ私モ誠ニ耳ヲ傾ケテ聽クコトデゴザイマシテ、而シ
尤モナコトデゴザイマスルケレドモ、併ナカラ如何ニ文部大臣ガ鹿兒島出身アタテ、而シ
テ政友會ノ院内總理ガ鹿兒島ノ御方デアルガタメニ、特ニ此學校ヲ鹿兒島ノヤウナ遠
イトコロヘ引張シテ往クト云フコトハ、其擅縱ナル仕方ニ私ハ憤慨セザルヲ得ナイノデゴザ
イマス、是故ニ此建議案ヲ提出シタノデゴザイマス

（政府委員澤柳政太郎君登壇）

○政府委員（澤柳政太郎君） 本案ニ付イテ一言政府ノ意思ヲ表明致シテ置キタイ
ト思フノデアリマス、第二高等農林學校ノ位置ヲ選定致シマスニ方リマシテハ、提出者
ニ就イテ研究致シ、且又専門ノ學者等ニモ——ソレニ専門ノ學者ノ意見ヲ諮ヒマシ
テ、即チ慎重ニ慎重ラ加ヘテ調査致シ、此ノ如ク決定致シタ次第デアルノデアリマス、
ソレ故ニ若シ本案が通過致シマシテモ、政府ニ於テハ再考スル餘地ガナイト云フコトヲ、
遺憾ナガラ申上ゲテ置カシケレバナラズノデアリマス

（「ヒヤ／＼」「討論終結」ト呼フ者アリ）

○福井三郎君 先決問題ヲ提出シマス

○議長（杉田定一君） 先決問題ハ何テス

○福井三郎君 委員附託説デアリマス——今神崎君ノ演説ハ批評ヲ加フル御方ハ

反對ナルガ如ク、默聽セラル、御方ハ贊成セラル、が如ク、議場ノ大勢ハ贊否相半バシ
テ居ル如ク見エル、此ノ如キモノコソ委員付託シテ、慎重ニ調査ヲ爲スベキモノト思ヒマ
ス、故ニ一種ノ事情ニ撮ンテ之ヲ卽決スルが如キハ、甚ダ輕舉ニ失スルモノト思ヒマス、
故ニ院議ノ體面ヲ重ンズルタメニ、本案ハ之ヲ九名ノ委員、即チ議長指名、九名ノ委
員ニ之ヲ付託シタイト思ヒマス

○恆松隆慶君 モウ論旨ハ明カデアリマスカラ、卽決ヲ望ミマス

○議長（杉田定一君） 委員付託ガ先決問題デアリマスルデ、之ヲ先ツ採決致シマス、
福井君ノハ九名ノ委員、議長指名デアリマスカ

○福井三郎君 左様デアリマス

○議長（杉田定一君） 福井三郎君ハ議長指名、九名ノ委員ニ付託スルト云フノデア
リマス、此動議ニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス

起立者

（「少數々々」「大多數」ト呼フ者アリ）

○議長（杉田定一君） 議長ニ於テハ少數ト認メマス

（「異議アリ異議アリ」ト呼フ者多シ）

○議長（杉田定一君） 異議ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス

（書記官起立者ノ數ヲ計算ス）

○議長（杉田定一君） 成規ノ賛成ガアルト認メマス

（「異議アリ異議アリ」ト呼フ者アリ）

○議長（杉田定一君） 小河君ニチヨント御尋シマスガ、議長ハ今ノ異議ノ申立ニハ成

規ノ賛成ガアルト思ヒマス、然ルニアナタハ異議ノ申立ニ成規ノ賛成ガナイト御認メニ
ナシテ居リマスカ

○小河源一君 アルト思ヒマス、アナタガ言フコトが分ラヌカラサウナル

○議長（杉田定一君） 閉鎖——諸君ニ申上ゲマスガ、本案ニ賛成ノ御方ハ白キ投票ヲ以テ之
ヲ決シマス

（「議長閉鎖」ト呼フ者アリ）

○議長（杉田定一君） 閉鎖——諸君ニ申上ゲマスガ、本案ニ賛成ノ御方ハ白キ投票ヲ以テ之
ヲ決シマス

（「委員付託デス」ト呼フ者アリ）

○議長（杉田定一君） 是ハ……委員付託ニ賛成ノ御方ハ白キ札ヲ御持參ラ願ヒマス
ス、委員付託ニ反對ノ御方ハ青キ札ヲ御持參ニアルヤウニ願ヒマス——氏名點呼

（書記氏名ヲ點呼ス）

第十五

米國「ゼームスタン」博覽會出品國庫補助ニ關スル建議案
議案(村松愛藏君外七名提出)

(書記朗讀)

米國「ゼームスタン」博覽會出品國庫補助ニ關スル建議案
北米合衆國「バージニア州」ゼームスタン」ハ英語ヲ使用スル人民ノ始テ
上陸セシ地點ニレテ本年恰モ其ノ三百年ニ相當スルヲ以テ米國政府ハ紀念
祝典ヲ該地ニ舉ケ陸海軍閱兵觀艦ノ式ヲ行フニ方リ各國ノ艦隊ヲ招待シ其
ノ儀ヲ盛ナフシメムトシ此ノ好機ヲ利用シテ博覽會ヲ開設ス帝國政府モ亦
既ニ海軍艦隊及陸軍將卒ヲ此ノ紀念祝典ニ派遣スルコトナレリ然ルニ同
博覽會ニハ帝國政府ノ贊同ナキモ斯ノ如キ時會ニ際シテ戰後國運ノ發展ニ
伴フ帝國進歩ノ實質ヲ表彰スルハ極メテ喚緊ノ事タルヲ信ス政府ハ速ニ同
博覽會出品者補助ニ關シ適當ノ措置ヲ執ラムコトヲ望ム

右建議ス

(奥野市次郎君登壇)

○奥野市次郎君 是ハ極メテ簡單ナ案デスガ、米國「ゼームスタン」ニ博覽會開設ニナルノア、ソレニ出品スル者ニ國庫ヨリ補助ヲ與ヘテ與レヨト云フ建議案アリマス、此博覽會ハ建議書中ニモ認メテ置キマシタ通り、初メテ歐洲人ガ、英語ヲ以テ話ス人種ガ、米國大陸ニ上陸シタ所ハ即チ此「ゼームスタン」アル、是ニ初メテ歐洲人即チ英語ヲ話シマスル人種ガ上陸シテ米大陸ニ蔓延シテ終ニ今日ノ如キ英語ガ世界ノ重大ナル國語トナフア次第アリマス、本年ハ此英語ヲ以テ話シスル人種ガ初メテ上陸以來二百年ニ相當スル、此三百年ノ紀念ノヌメ米國政府ハ盛大ナル陸海軍觀兵式ヲ行ハレルノアリマス、是ニハ歐米各國ノ政府、我日本ノ政府モ贊同致シテ、既ニ豫算ニ於テ海軍ニ於テハ八十餘万圓、陸軍ハ四萬餘圓ノ金ヲ支出シテ、之ニ參照スルコトニナラテ居ルノアリマス、然ルニ米國政府ハ此各國艦隊陸軍が多數集テ來ルノアリマスカラ、此機會ヲ利用シテ博覽會ヲ開イタノアリマス此博覽會ニハ各國贊同シテ出品スルノアリマス、我政府ハ此博覽會ニ贊同ヲ表シテ居ラヌカタメニ、豫算ニハ此博覽會出品者ニ對スル補助請求ハサレテ居ラヌニアリマス、本圓等ノ考フルトコロニ據リマスレバ、我帝國ハ戰役ノ光榮ヲ以テ列國環視ノ間ニ立テ居ルノアリマスカラ、此ノ如キ時機ガアラク願ウテモナキ時機アルカラ、斯様ナ時機ヲ利用シテ我國ノ光榮ヲ發展シ、物質的文明ノ進歩シテ表彰ラヌカタメ、博覽會ノ出品ニ對シテ相當ノ補助ヲナスコトハ適當ナコトアルト思フ、農商務省ノ當局者ハ之ヲ今日マテ怠慢ニ附シテ居タコトハ、甚ダ遺憾ニ堪ヘストコロデアリマス、故ニ本會ニ於テ既ニ陸海軍ノ費用ニ向テ協賛ヲ致シテ以上ハ、僕ノ補助ヲ與ヘルコトニ固ヨリ客ナラザルコト確信致シマシテ、諸君ノ御賛成ヲ仰ギタノアリマス、苟斯ノ如キ場合ニ於テ政府ガ補助ヲ與ヘタ前例ノ有無ヲ取調べ見マシタガ、ソレニハ白耳義ノ「リエーワ」ニ於テ博

覽會ヲ開イタトキニ政府ハ參同シテ居ラナカッタガ、第一豫備金ヨリ補助ヲシタ例ガアリマス、又米國ノ「ボートランド」ニ於テ博覽會ヲ開キマシトキニ是ト同様ノ例ガアル、又シテ、諸君ノ贊同ヲ求ムルト云フコトハ甚ダ妙トハ思ハヌノアリマス、若シ農商務省ノ當局者ガ、此博覽會ノ開ケルコトヘ極マテ居ルノアルカラ、始メカラ豫算ヲ請求シテ來タナラベ、日本國ガ斯ノ如キ建議ヲスル必要ハナインアリマスガ、農商務省當局者ノ怠慢ノタメニ此議會ノ切迫スルトキニ於テ、此建議ヲ出サケレバナラヌト云フコトニナラヌノアリマスカラ、諸君ハ此戰後發展セル國運ノ狀況ヲ米大陸ニ向テ示スノ好時機ヲ失セマヤウニ、此建議案ニ速ニ贊同ヲ與ヘラレンコトヲ希望致シマス

○管原傳君 本案ハ議長指名ノ九名委員ニ付託セラレンコトヲ希望致シマス
(「贊成々々」ト呼フ者アリ)
○議長(杉田定一君) 管原君發議ノ通り、本案ヲ議長指名ノ九名ノ委員ニ付託スルニ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(杉田定一君) 御異議ナイト認メマス、日程第十六ヨリ二十二至ルマテハ請願デアリマス、合セテ委員長ヨリ報告ヲサセマス——古賀庸藏君

第十六 (特別報告第十一號) 北海道鐵道天鹽北 (委員長報告)

第十七 (特別報告第十二號) 高等工業學校設置 (委員長報告)

第十八 (特別報告第十三號) 區裁判所出張所設置 (委員長報告)

第十九 (特別報告第十四號) 藝術各學校 (委員長報告)

第二十 (特別報告第十七號) 登記所新設ノ請願 (委員長報告)

(古賀庸藏君登壇)

(「足利足利」ト呼フ者アリ)

○古賀庸藏君 諸君懇ハ請願委員長ニ代テ御報告ヲ致シマス(「簡単々々」ト呼フ者アリ)日程第十六ハ北海道鐵道天鹽北見線ノ工事ヲ僅ニ天鹽國名寄ニ中止シ、專ラ力ヲ十
勝鉄路線及留萌線ニ注ギ、アル次第アル、抑天鹽北見線ハ第一ニ國防上新領土
鐵道速成ノ請願此兩件アゴザイマス、其要旨ハ政府ハ鐵道鐵道敷設法ヲ制定シタレドモ其第一期幹線天鹽北見線ノ工事ヲ僅ニ天鹽國名寄ニ中止シ、專ラ力ヲ十
勝太ト連絡ヲ通シ經營ヲ完全ニシテ防備ヲ容易ニシ得ベキモノアル、加之拓殖上又天

鹽北見ノ炭田、油田、森林等無源ノ富源ヲ有スルモノアルカラシテ、十勝鉄路線ト同様ニ語ルベカラザルモノアル、因テ政府ヲシテ最初ノ方針ヲ變更スルコトナク、尙一層速成ヲ期セシガタメニハ更ニ稚内方面ヨリ著手ヲシテ成工ヲ急クト云フコトニ致シタイト云フ趣意デアツテ、即チ請願委員會ハ之ヲ相當ノモノナリシテ院議ニ付スルコトニ決定シタ次第デゴザイマス、日程第十七ハ高等工業學校ヲ福井縣ニ設立ヲシテ貰ヒタイト云フ請願デアル、請願者ハ福井縣絹織物同業組合長大久保錢彌ノ提出デアル、其要旨ハ福井縣ハ製綿業ハ近年益々發達ヲ致シテ輸出品ノミヲ以テ計算シテモ年額二千万圓以上ニ上リ全國輸出品ノ中テハ重要ナ位置ヲ占メテ居ル、尙一步ヲ進メテ歐米市場ニ争ハントスルノ勢デアル、併ナガラ斯業ノ發達ヲ望ムニハ特種ノ技能ト特種ノ智識トヲ要スル次第デアルカラシテ、此製綿業ノ上ヨリ高等工業學校ヲ福井縣ニ設置サレタイト云フ趣意デアル、是亦請願委員會ニ於テ相當ナ次第トシテ院議ニ付スベキモノト決定ラシタ次第デゴザイマス、日程第十八、是ハ區裁判所出張所設置ヲ請願スルモノデ、岡山縣眞庭郡新庄村本田造酒ノ請願デゴザイマス、此要旨ハ美甘新庄ト云フ兩村ハ岡山縣ノ眞庭郡ノ西部ニ在シテ、別ニ一區割ヲ爲シテ其民業上ノ訴訟不動産ノ登記事件ニ對シテハ從來勝山區裁判所ノ管轄アゴザイマシタトコロガ、距離ノ遠隔ナルミナラズ、其地勢タル山岳重疊交通ノ困難到底言語ヲ以テ言ヘナイト云フヤウナ不便デアルカラシテ、爲ニヨロくノ難澁ヲ釀シ已ムナク姑息ノ契約ヲ致シ其結果トシテハ種々ノ訴訟ヲ提起スルト云フ情弊ヲ生ズルモノアルカラシテ、相當ノ場所ヲトシテ出張所ヲ設置セラレタイト云フコトデアツテ、是亦請願委員會ニ於テハ相當ナルモノト認メマシテ院議ニ付スルコトニ決定シタ次第デアリマス、日程第十九、是ハ擊劍術ヲ各學校ノ正科ニ加ヘテ貴ヒタイト云フ請願デ、此請願者ハ長野縣長野市縣町士族劍道業柴田克己外六名ノ提出デアル、其理由ハ劍道ハ我國固有ノ術ニシテ平素子弟ヲシテ之ヲ講習セシムルハ其手腕ヲ鍛錬シ氣概ヲ養成シ尚武ノ美風ヲ興起スルノ功少ナカラヌモノアル、然ルニ方今諸學校ニハ之ヲ皆隨意科トシテ設アルケレドモ、生徒ハ皆正科ニ力ヲ盡シテ隨意ヲ修ムモノガ少ナイ次第デアルカラシテ、此擊劍術ヲ正科ニ加ヘナラバ始メテ相當ノ修練ヲ致スデアラウ、斯ウ云フ請願デアル、又學校ハ高等學校、師範學校、尋常中學校等ノ正科ニ加ヘテ貴ヒタイト云フ趣意デアツテ、是亦請願委員會ハ相當ノ趣旨アルト認メマシテ、院議ニ付スベキモノト決定ラシタ次第アル、日程第二十八登記所新設ノ請願デ、願主ハ靜岡縣小笠郡西方村長棟葉忠藏外三名ノ提出デアル、其要旨ハ掛川區裁判所管内四方村堀之内ノ地タルモノハ、東海道ノ鐵道が開通以來益々繁榮ノ土地トナリ、登記事件ハ近來非常ニ増加致シテ來タ次第アル、然ルニ拘ラス登記所ノ設がナイタメニ誠ニ該地方ハ困難ヲ致シテ居ル、故ニ敷地建物等ハ之ヲ獻納致スニ依シテ堀之内方面ニ登記所ヲ新設サレタイト云フ願旨デアツテ、至極相當ナ願旨ト見テ請願委員會ハ之ヲ院議ニ付スベキモノト決定致シタ次第デアリマス、左様御承知ヲ願ヒマス

〔「委員會報告通り、全部贊成」又「十六ヨリ二十マテ一括シテ下サイ」ト呼フ者アリ〕

○議長（杉田定一君） 日程第十六ヨリ第二十二至ルマテ一括シテ議題ニ供スルコトニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ異議ナシ」フ聲起ル〕

○議長（杉田定一君） 御異議ハナイト認メマス——十六ヨリ二十二至ルマテ委員長報告通卽チ是ヲ採擇ラスルニ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ異議ナシ」フ聲起ル〕

○議長（杉田定一君） 御異議ハナイト認メマス、委員長報告通り決シマシタ、次回ノ日程及指名ノ委員ハ公報ヲ以テ御通知致シマス、本日ハ是ニテ散會

午後二時五十二分散會